

○ 元町三区防災詳細マップ（一部抜粋）



■ 取組を行って

- 災害発生時の帰宅方法や学校からの連絡手段にかかわる取組について、保護者からは、大変わかりやすく、ありがたいと好評を得ている。子どもがいつ帰宅するのかが判断しやすく、緊急時の安全確保の体制について掲示物として全戸配付するなど、一斉メールでは連絡できない家庭に対しても、緊急の動きが見えやすくなった。
- 互助や地域の連帯が、子どもを守ることをきっかけとしながら促進されている。
- 地区行事の中でも、地区運動会や夏祭り、空き缶回収や花植えなどの地域ボランティア活動により、休日は部活動一辺倒だった中学生も帰属意識が高められている。
- 高島小学校では、PTA総会への保護者の出席率が極めて高く、積極的に教育にかかわろうとする姿勢が見られる。
- 取組をさらに発展させるために、安全や防災の面では、町全体で統一された方向にもっていきたい。
- 子どもたちが親になったとき、今度は自分たちも何かをやろうという「循環する心」や地域を愛する気持ちを育むことに、つなげていきたい。

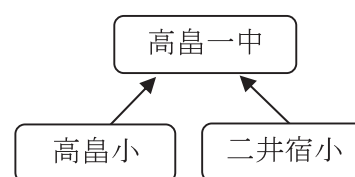
■ まとめ

学校の緊急時の安全確保の取組から、PTA、地域の様々な組織の人々との連携に広がり、地域で子どもを育てる「循環する心」の育成にまで発展していくことが期待される。

□ 学校基礎データ（平成24年度）

学校名	児童生徒数（学級数）
高島町立第一中学校	292人（12学級）
高島町立高島小学校	452人（19学級）
高島町立二井宿小学校	47人（6学級）

<単一複連携>



鶴岡市立豊浦中学校区

「豊浦地区ブロック小中連携の組織と事業」

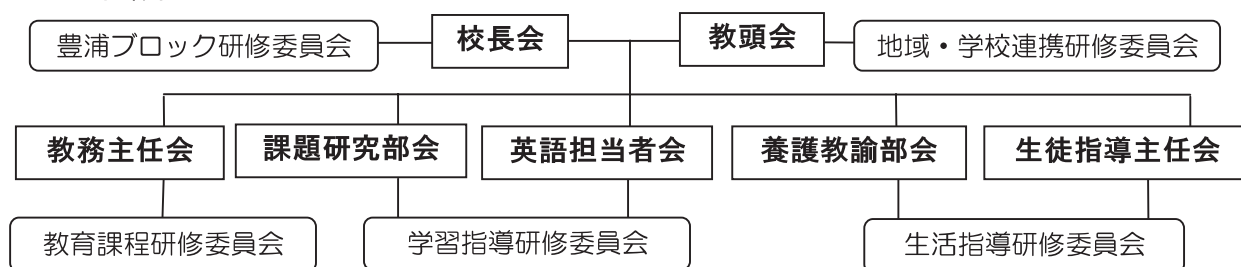
■ はじめに

豊浦中学校は、三瀬、小堅、由良の3つの学区から成っている。豊浦地区の小中学校、保護者、地区が連携して子どもたちを育成すること、子どもたちの課題を共有し、その解決に向けて研究や実践を重ねていくことをねらいとして、開校当初から協力態勢を築いてきた。

子どもたちは素直で穏やかであり、また保護者や地区の方々は、地域の小学校及び中学校への期待が大きく、教育活動の様々な面で協力的である。

■ 小中連携を推進する組織

○ 組織図



鶴岡市全体の校長会や教頭会などの他に、豊浦中学校区独自にもそれぞれの部会会議を年間複数回開催し、小中連携を密にしています。

ここに
注目！

○ 各部会の事業内容

組 織	事 業 内 容	開催回数
校長会	1. 各組織の運営方針等協議 2. 地域連携・小中連携の在り方検討 3. 小中学校の教育活動や子ども理解と情報交換 4. 課題解決に向けた研修と連絡調整 5. 校長会主催ブロック研修の推進	5回
教頭会	1. 地区PTA連携事業の推進(校長・教頭連絡協議会、PTA連絡協議会及び歓送迎会懇親会) 2. 豊浦ブロック研修の推進 3. 小中連携の推進強化	6回
教務主任会	1. 教育課程編成・諸行事等の調整 2. 授業参観、出前授業の推進、研究授業参観の調整 3. 小中連携の推進(小中担当者会、連絡会、入学説明会、学級編制会議)	3回
課題研究部会	1. 重点課題への取組推進 2. ブロック研修の円滑な推進 3. 学力向上の推進	3回
生徒指導部会	1. 生徒指導に関する情報交換と指導の推進 2. リーダー交流会の推進	2回
養護教諭部会	1. 健康診断、保健指導の連携推進 2. ノーメディアにかかわる啓発活動と取組推進 3. 児童生徒の情報共有と指導の連携	2回
英語担当者会	1. 英語指導の情報交換と共有の推進 2. 授業参観と出前授業の推進	2回

■ 取組の実際

○ 学習指導に関する実践

- ・ 教職員交流授業研究
- ・ 英語出前授業の実施

○ 生徒指導に関する実践

- ・ 児童会、生徒会リーダー交流会

生徒指導主任会が指導して、児童会、生徒会が活動報告やレクリエーション交流、ボランティア活動を行っている。中学生は小学生の模範となって行動しようと頑張ったり、小学生が中学生への憧れを感じたりする機会になっている。

- ・ 新入生と保護者対象入学時学校説明会

○ 地域との連携に関する実践

- ・ 地区のお祭り、地区運動会への参加や運営の手伝い
小学校区ごと開催する祭りに、地区担当教員、児童生徒、住民のほとんどが参加し、小中学生も運営の一役を担っている。児童生徒が地区住民との交流を通して自己肯定感を育み、地区の大人が協力して取り組む姿を間近に見ることで、地域参加の大切さを感じる機会になっている。

- ・ 4校合同PTA研修会

平成20年度より、家庭での「ノーテレビ、ノーゲーム」について取り組んできた。家庭で約束事を決める話し合いを通して、家族のコミュニケーションを深め、子どもたちの生活習慣の改善をねらっている。

- ・ 同窓会との連携による教育環境整備
- ・ 地域の森、山、海岸の散策と地元の自然を知る活動及び地域の清掃活動



■ 取組を行って

児童生徒が、保護者や地区住民の方と協働して活動する中で、地区の一員として一役を担う機会があり、地区を意識して日常の生活を送っている。地区全体で子どもたちを育てようという意識が共有されている。

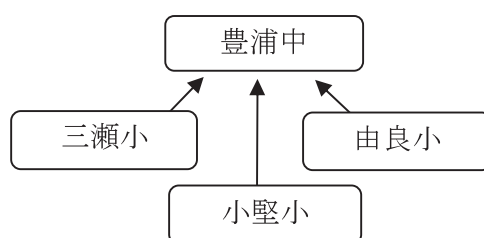
■ まとめ

取材を通して、校長会の強力なリーダーシップのもとに、具体的な推進役を教頭会や各担当部会が担うという、組織的な連携が強固であると感じられた。地区の児童生徒、教職員の減少に伴い、1人の教員が複数の担当を抱えているという実情から、地区との連携の在り方について今後検討が必要になってきている。今後、これまでの継続した取組を引き継いで、保護者や地域との一層の協力関係を構築していくことが期待される。

□ 学校基礎データ（平成24年度）

学校名	児童生徒数（学級数）
鶴岡市立豊浦中学校	117名（7学級）
鶴岡市立三瀬小学校	75名（7学級）
鶴岡市立小堅小学校	29名（4学級）
鶴岡市立由良小学校	48名（4学級）

<単一複連携>



山形市立第八中学校区

「西山会の取組」

～地域の子どもを9年間連携して育てるために～

■ はじめに

第八中学校区の3つの小学校は、いずれも単学級の小規模校であり、卒業生は全員第八中学校に進学している。昭和58年度に小中学校の校長・教頭が中心となり「西山会（せいざんかい）」が発足した。小学校間では授業の交流を中心に、中学校では各部会ごとの活動を中心にスタートし、翌年には通知表配付を小中同日に設定し、また、その翌年からは小学校学年担任会の発足が提案されるなど、年次を経るごとに充実した取組となってきた。

■ 「西山会」の歩み（沿革資料より抜粋）

西山会の歩み

1. 名称 山形市西部地区小・中学校連絡協議会
2. 組織 山形市第八中学校ブロックの小・中学校
☐ 山形市立西山形小学校 ☐ 山形市立双葉小学校 ☐ 山形市立村木沢小学校
☐ 山形市立大曽根小学校 ☐ 山形市立第八中学校 *23年度末双葉小閉校
 * 当番幹事校は、小学校4校が年度ごとにローテーション

3. 発足と経緯

- 昭和58年度…5校により発足（校長・教頭が中心）

- * 教職員の資質向上と親睦交流
- * 地域性（欠落している面）の打破
- * 無気力・無感動・固定概念等からの打破

- ◇ 小学校は、理科・図工・体育面での交流

- ◇ 中学校は、「部会」に精を出す

- ◇ 年間計画・生徒指導・レクリエーション等の連絡・調整

- 昭和59年度

行事調整…通知表配付を、小学校（午前）・中学校（午後）にする。

5月の行事調整は困難なので、2月の教頭・教務主任会で調整を図る。

ここに注目！

昭和58年の発足から約30年間続いており、学区の小中学校全教職員や保護者に浸透している。

■ 取組の実際

○ 西山会総会

毎年春に1回、午後の時間帯を使い西山会総会が行われる。当番校の授業参観の後、部会ごとに協議がもたれ、子どもの生活・学習面での情報の共有化と小中学校での指導実践の相互理解ができる貴重な場となっている。

また、PTAも含めた顔合わせ会なども年3回行われている。

西山会の組織図

校長教頭会（年2回）
 部長会 ———— 学習指導部会（年2回）
 ——— 生徒指導部会（年2回）
 教務主任会（年3回）
 養護教諭部会（年3回）
 事務部会（年3回）
 小中担任連絡会（年2回）

○ 八中生活一日体験事業

11月に3つの小学校の6年生全員が学級担任の引率のもと、午後から第八中学校に登校し、中学生の生活を体験する。児童は英語と理科から選択した授業を受けた後、音楽の授業で各校の校歌を披露するなど合唱指導を受ける。その後体育館で中学生から中学校生活について説明を受け、体験活動終了後小学校担任の引率で下校する。

○ 学校保健委員会の合同開催

年2回の学校保健委員会のうち1回を西山会の取組として合同で開催している。平成23年度は、『「西部地区小中学生の生活リズムを考える」～メディアと上手につきあっていくためには～』をテーマに、アンケート調査とその分析を行い、地域、家庭、学校のそれぞれの立場でできることをまとめた。



○ 発達障がい理解に関する小中連携

小中で共通認識をもちたいという養護教諭部会の発案と各部会からの要望をうけて、第八中学校主催の講演会「小中連携に望むこと～発達障がいについて理解し、授業ではどのように対応するか～」講師：山形大学医学部横山浩之教授」の案内を小学校の教職員にも配付した。今年度から始めた取組で、同一テーマでの講演会を複数年にわたって計画している。

■ 取組を行って

長年にわたる継続した取組により、保護者の年代も「西山会」を土台とした小中連携を経験した世代になり、小学校区ごとの地域の特色を大切にしつつ、第八中学校区としての連帯感ができている。そのため、子どもだけでなく保護者も中学校への進学に戸惑いが少なく、円滑な接続ができている。

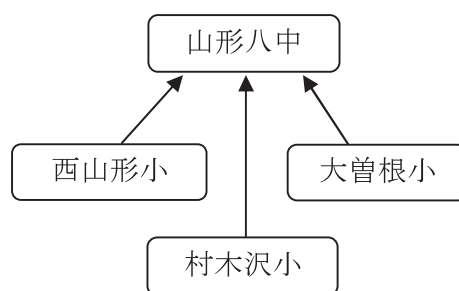
■ まとめ

取材を通して、長い歴史をもつ西山会の存在により、小中学校の教員が密に情報を共有し合うことができていることを感じた。互いに顔のわかる関係性の中で、共に地域の子どもを9年間で連携して育てようという意識が高く、交流行事などの運営も大変スムーズに行われていた。また、部会から要望があった新規の取組などもすぐに実行に移しやすい土壌ができている。

□ 学校基礎データ（平成24年度）

学校名	児童生徒数（学級数）
山形市立第八中学校	161名（7学級）
山形市立西山形小学校	104名（7学級）
山形市立村木沢小学校	119名（7学級）
山形市立大曽根小学校	74名（7学級）

<単一複連携>



中山町立中山中学校区

「校長会・教頭会を核にした小中連携の取組」

■ はじめに

中山町には、中山中学校と長崎小学校と豊田小学校の3校がある。

中山町立中山中学区では、「中山の子どもはひとつ」というスローガンで、小中連携委員会を組織して活動を進めている。核となるのは、月1回の割合で行われる校長会・教頭会である。ここで、教育にかかわる町の課題解決に向け、情報が密に交換され、かつ基本的な方向性が確認されて、小中連携委員会の「まなびプロジェクト」「つながりプロジェクト」「すこやかプロジェクト」等の実際の活動に町一体となって組織的に取り組めるようになっている。

他にも、小中連携委員会の趣旨を生かしながら、学校便り、校内授業研究会などの案内等については、町内の各学校へも送付すると共に、中学校の学校便りは6年生全員にも配付している。

■ 中山町小中連携委員会の組織

現在の3つのプロジェクト体制の組織になったのは平成19年度からである。

【中山町小中連携委員会の組織から抜粋】

- ・委員長：中山中学校長
- ・委員：教育委员会主任指導主事
- ・事務局：各校教頭
- ・各校委員：校長、生徒指導担当者、教育相談担当者、研究主任、教務主任等

ここに
注目！

校長会・教頭会の方向性を捉えてプロジェクト毎にテーマを決め活動を企画・展開し、全教員を巻き込んだ活動も仕組んでいます。

【まなびプロジェクト】……「9年間を見通した授業の実践」

【つながりプロジェクト】…「9年間の育ちに視点を当てた幼保小中連携の充実」

【すこやかプロジェクト】…「学校・家庭・地域の連携による『中山町の子ども』の育成」

・特別支援教育部会（山辺町と合同）

・養護教諭部会

・事務部会

・音楽会や小体連他

■ まなびプロジェクトによる「各教科の連携カリキュラムの作成等」の実践

各学校の学習指導部長や研究主任が中心となりプロジェクトを構成している。今年は、「9年間を見通した授業の実践」のために、3校の全教員が参加する夏季研修会で各教科の連携カリキュラムの作成作業を行った。また、重点教科「算数・数学」の学力向上のための方策の検討、町主催の授業公開半日研修に向け、授業指導案の検討会を行ったり、実践の検証をしたりしながら、町全体の子どもの学力向上のために活動している。

<例 理科連携カリキュラム>

平成24年度 教科別年間学習計画(理科) 担当: 中山町立中山中学校												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第3学年	1. 力のつり合い 2. 物質の運動	1. 生物のからだ 2. 物質の運動	1. 生物のからだ 2. 物質の運動	1. 生物のからだ 2. 物質の運動	1. 生物のからだ 2. 物質の運動	1. 生物のからだ 2. 物質の運動	1. 生物のからだ 2. 物質の運動	1. 生物のからだ 2. 物質の運動	1. 生物のからだ 2. 物質の運動	1. 生物のからだ 2. 物質の運動	1. 生物のからだ 2. 物質の運動	1. 生物のからだ 2. 物質の運動
第2学年	1. 物質の運動 2. 物質の運動	1. 物質の運動 2. 物質の運動	1. 物質の運動 2. 物質の運動	1. 物質の運動 2. 物質の運動	1. 物質の運動 2. 物質の運動	1. 物質の運動 2. 物質の運動	1. 物質の運動 2. 物質の運動	1. 物質の運動 2. 物質の運動	1. 物質の運動 2. 物質の運動	1. 物質の運動 2. 物質の運動	1. 物質の運動 2. 物質の運動	1. 物質の運動 2. 物質の運動
第1学年	1. 物質の運動 2. 物質の運動	1. 物質の運動 2. 物質の運動	1. 物質の運動 2. 物質の運動	1. 物質の運動 2. 物質の運動	1. 物質の運動 2. 物質の運動	1. 物質の運動 2. 物質の運動	1. 物質の運動 2. 物質の運動	1. 物質の運動 2. 物質の運動	1. 物質の運動 2. 物質の運動	1. 物質の運動 2. 物質の運動	1. 物質の運動 2. 物質の運動	1. 物質の運動 2. 物質の運動
第6学年	1. 物質の運動 2. 物質の運動	1. 物質の運動 2. 物質の運動	1. 物質の運動 2. 物質の運動	1. 物質の運動 2. 物質の運動	1. 物質の運動 2. 物質の運動	1. 物質の運動 2. 物質の運動	1. 物質の運動 2. 物質の運動	1. 物質の運動 2. 物質の運動	1. 物質の運動 2. 物質の運動	1. 物質の運動 2. 物質の運動	1. 物質の運動 2. 物質の運動	1. 物質の運動 2. 物質の運動

■ つながりプロジェクトによる「9年間の育ちに視点を当てた幼保小中連携」の実践

教務主任を中核にしながら、様々な学校行事等の日程調整をはじめ、全ての連携活動の調整を図るようにしている。

特に、平成24年度は、「小1プロブレム」や「中1ギャップ」の未然防止・早期発見・早期支援を図るため、幼保小中の連携活動の企画運営に重点を置いて活動している。県の「幼保小連携推進アドバイザー派遣事業」を活用しながら、町内2つの小学校を会場に2回ずつ連絡会や研修会を開催したり、園児が入学前に進学先の小学校を訪問する園児学校訪問を企画・実施したりしている。

また、小小連携活動や6年生への出前授業、職員研修の企画・運営にあたり、顔の見える連携をしていくためにも大変役立っている。ここ4年ほど3校の全教員で続けて取り組んだ「小中学校の教科書をもとにしたワークショップ研修」の成果を踏まえ、各教科の9年間を見通した連携カリキュラムづくりを「まなびプロジェクト」の活動につないでいる。

■ すこやかプロジェクトによる「町スクールカウンセラー（SC）配置事業」の実践

各学校の生徒指導や生活指導の主担当者、教育相談担当者等が中心にプロジェクトを構成している。このプロジェクトの平成24年度の重点は、スクールカウンセラー（以下SC）の配置事業について一層の充実を図っていることである。

中山町では、町単独でSCを配置していることが特徴であり、年々充実を図ってきている。特に、平成24年度は、町単独で2名のSCを専門機関から招聘し、年間各80時間程度、延べ約160時間のSC配置事業を行っている。本プロジェクトでは、SC来訪年間計画を作成し、各小中学校の要望や緊急性を勘案しながら日程等を調整し、児童・生徒・保護者・教員が、小学校から中学校まで、継続してカウンセリングを受けることができる体制を充実させている。

■ 取組を行って

プロジェクト毎に、9年間を見通した各教科の連携カリキュラム作成や幼保小中連携活動、SC事業等活動の重点化を図りながら進めることができた。また、町の全教職員を巻き込んだ取組のおかげで、小中学校の教員同士の顔の見える連携が可能になっている。さらに、夏季研修、町長や教育委員会関係者も参加する夏の全員懇親会などを通し、教員同士の懇親が進み、気軽に相談し合える関係が進んでいる。「できるところから、無理なく」を合い言葉に小中連携を行ってきた。具体的な活動がしっかりと反省を加えながら年々改善が図られてきている。今後の課題として、小小連携は学年毎に行っているが、学校規模が違うので配慮が更に必要である。また、連携カリキュラムを学校毎にどう捉えて、どう活用を進めて児童生徒の学力向上に結びつけていくかが課題である。

■ まとめ

「中山の子どもはひとつ」という共通理解のもと、校長会や教頭会と小中連携委員会が機能的に働き、全教職員を巻き込んだ具体的なカリキュラム連携と教職員の意識の連携が図られていた。

□ 学校基礎データ（平成24年度）

学校名	児童生徒数（学級数）
中山町立中山中学校	341人（14学級）
中山町立長崎小学校	466人（20学級）
中山町立豊田小学校	144人（8学級）

<単一複連携>

